

平成 27 年第 1 回大崎市議会定例会会派代表質問発言通告書

発言順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項	
1	29	佐藤和好 (大崎ニューネット)	<p>1 平成 27 年, 合併 10 年を迎える大崎版・地方創生元年の取り組みについて</p> <p>(1) 大崎市の人口動態と産業構造の変化について</p> <p>ア 合併時の人口と合併 10 年目の対比は。旧 1 市 6 町人口が合併時を 100 とした指数対比の説明を求める。また, 転入・転出の状況推移はどのようになっているのか</p> <p>イ 10 年, 20 年後の人口予測と産業構造の推移予測はどのように考察されているのか</p> <p>(2) 「ストップ少子化・おおさき元気戦略プロジェクト」について</p> <p>ア 具体的な協議経過と提案内容はどのようになっているのか</p> <p>イ 上記プロジェクトの提案は, 若手職員のモチベーションを高めるためにも公表すべきと思うが, いかがか</p> <p>ウ 具現化するための, 組織面, 財政面での取り組みに対する所見を尋ねる</p> <p>(3) 新市建設計画の見直しについて</p> <p>ア 合併特例債発行期限延長に伴う必要最小限の計画変更でよいのか。合併 10 年の経過の中で, 大震災の発生や社会情勢の変化から, 新たに必要とされる事業が喫緊の課題と捉える。前回の新市建設計画見直しとは時代趨勢が大きく変化している現実の所見を問う</p> <p>イ 合併特例の交付税上乗せ分は 28 年度から段階的減額に入るが, 総務省では今年 1 月, 最終的に 7 割程度を確保し継続支援するとした。本市財政にも朗報と捉えるが, 今後の財政計画の所見を問う</p> <p>2 合併 10 周年記念事業について</p> <p>(1) 今年は大崎市合併 10 周年を迎えるとともに, 戦後 70 年の節目の年を迎える。本市においても平和希求都市宣言を行っているが, 戦争によって犠牲となられた方々の追悼, 慰霊の行事を行うことを提言するが, 所見を問う</p> <p>(2) 記念事業の一環として, 市民の一体感醸成のため, 大崎市縦断駅伝大会の実施を提言するが, 所見を問う</p> <p>3 ふるさと納税の推進について</p> <p>(1) 昨年末, 国の税制改正により, 本市でもふるさと納税者に対する制度設計の積極的検討を行う旨の答弁があり, 施政方針でもうたわれているが, どのように描かれているのか, 尋ねる</p> <p>4 地域公共交通の再編について</p> <p>(1) 「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」の地方創生政策により地域公共交通の重要度が増しているが, 短期的対応と長期的の区分はどのように識別されているのか, 尋ねる</p> <p>(2) 公共交通再編へのフロー図をどのように描いているのか, 尋ねる</p>	160 分

発言順	議席番号	氏名	発言事項
			<p>5 産業施策について</p> <p>(1) 第三セクターの自立、存廃の基準について</p> <p>ア 総務省は昨年8月、第三セクターの運営に関する指針を5年ぶりに改定し、各自治体に存廃決断を求める通知がなされた。本市での検討結果はどうなっているのか、尋ねる</p> <p>(2) 米価大幅下落に対する支援策と農業振興について、市独自の支援策の考えについて伺う</p> <p>(3) 産業創造推進事業について</p> <p>ア 産業振興計画・後期計画において、多様な連携による新産業創造のため農商工連携の推進を掲げている。特に、MSOの活動に期待するが、連携イメージの商工会議所、商工会、JA、さらには森林組合、観光団体等、産業振興団体関係機関のより強固な連携が必要と捉えるが、実現するための支援策の所見を伺う</p> <p>6 子育て支援と教育行政について</p> <p>(1) 保育園及び幼稚園の今後のあり方について</p> <p>ア 公立幼稚園の園児数は減少の一途にあり、保育園は待機児童の解消が最優先課題とされているギャップがある。特に、古川地域においては中心部に私立幼稚園があることから、周辺に公立幼稚園が設置され、少子化と両親共働きの関係から入園希望が激減し統合幼稚園となっているが、スペース的な改善が必要と思われる。公立幼稚園の今後のあり方をどのように捉えているのか</p> <p>イ 第3次集中改革プランの最終年度に当たる今年度は、保育所・幼稚園運営の公設民営化への取り組みも深まると理解しているが、今後の進め方をどのようにお考えか</p> <p>ウ 放課後児童健全育成事業での中心部児童クラブ事業と周辺部学童保育の制度的違いの是正は図られるのか</p> <p>(2) 学校教育環境整備推進事業について</p> <p>ア 対象となる小学校区の説明会も一巡されたと思う。これまでの経過から再編統合に一定の理解を得た地区と難航している地区があると伺っているが、新築統合小学校の建設までの時間的問題を考慮すれば、合意形成の説明方法に工夫が必要と思われるが、今年度の進め方はどのようにお考えか</p> <p>イ 住民説明会を通じて再編統合に伴う通学距離に対する不安も大きいようであり、通学バスの運行については合併前の各地域で運用されたままと伺っているが、より改善された統一は図られるのか</p> <p>(3) 小中学校施設整備事業について</p> <p>ア 大崎市内中学校の武道場設置状況はどのようになっているか。古川東中学校の武道場は社会教育施設を借用となっているが、さまざまな制約を受けることも事実である。教科としての武道教育や部活動教育の見地から、現状で了としているのか、所見を伺う</p> <p>(4) 全国中学生不登校調査結果について</p>

発言順	議席番号	氏名	発言事項
			<p>ア 先般、調査結果が公表され、仙台市を除く宮城県ではワーストワンとのこと。大崎市における調査結果の所見はどうか。また、この結果と「いじめ」については言及されていないが、「いじめ防止基本方針」策定後の状況について尋ねる</p> <p>7 生涯スポーツの推進と公園整備、心身の健康づくりについて</p> <p>(1) パークゴルフ場の整備推進について</p> <p>ア 三本木県有地にパークゴルフ場の整備を求める本市要望が実現に向けて大きく前進する旨の新聞報道がなされた。県設置の検討会参加には、本市ではどのような考えで臨むのか、所見を伺う</p> <p>イ 本市唯一の公認コースを備える田尻加護坊パークゴルフ場のさらなる利活用と整備を図る考えはないか、所見を伺う</p> <p>(2) 化女沼古代の里公園の再整備の構想が固まったと仄聞するが、概略の説明を求める</p> <p>8 地方創生・まちなか再生について</p> <p>(1) 立地適正化計画策定事業について</p> <p>ア 改正都市再生特別措置法に基づく本計画は7地区を網羅する計画なのか</p> <p>イ 「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」の考え方は、特に人口減少の著しい地区住民の前向きな理解が重要視される。市民参加の各地区中心部のまちづくり計画は「話し合う協働のまちづくり条列行動計画」所管担当課との連携が必要と思われるが、いかがか</p> <p>ウ 本計画作成には時限の条件がある。目標年月の設定は</p> <p>(2) 各地区の現況下での課題について認識と所見を伺う</p> <p>ア 鳴子地区</p> <p>(ア) 上鳴子市営住宅移転整備と跡地利用をどうするのか</p> <p>(イ) 川渡大橋のかけかえを地区まちづくりとしてどうするのか</p> <p>(ウ) 自然災害発生時に孤立確率の高い鬼首地区をどうするのか</p> <p>イ 岩出山地区</p> <p>(ア) 伊達公ゆかりの有備館、城山公園の活用をどうするのか</p> <p>ウ 田尻地区</p> <p>(ア) 総合支所新築と田尻駅周辺、大貫地区、2つの小拠点をどうするのか</p> <p>エ 三本木地区</p> <p>(ア) 県有地のパークゴルフ場整備予定地と三本木庁舎の将来空きスペースの活用をどうするのか</p> <p>オ 松山地区</p> <p>(ア) 中心部の歴史的まちづくりの発展策をどうするのか</p> <p>カ 鹿島台地区</p> <p>(ア) 整備進行中の駅東地区と中心部の整備をどうするのか</p> <p>キ 古川地区</p>

発言順	議席番号	氏名	発言事項	
			<p>(ア) 千手寺町から七日町の面的一体整備の必要性と課題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 病院跡地での道の駅構想は、七日町「醸室」との共存に結びつくのか 2) 市役所整備と七日町再開発事業の優先性はどのようにするのか 3) 緒絶川高質空間事業の目玉を何にするのか <p>(イ) 駅周辺地区</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 駅東、駅前の低・未利用地の活用構想をどうするのか <p>(ウ) 大幡、稲葉地区</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 雨水冠水問題は国道 108 号バイパス完成時により深刻になると思われる。その対応策をどうするのか <p>(エ) 市街地再開発の要望が多い。その対応をどうするのか</p> <p>9 水道事業について</p> <p>(1) アセットマネジメントについて</p> <p>ア 受益者負担を原則とする本事業において、負担軽減と資産管理のための財源確保策を講じた計画書を評価する。については、収入財源確保のために、未給水地区への配水管整備計画の進捗と効率的投資のために、一定の住宅密度を持つ地区への配水管整備計画を早めることはいかがか、所見を尋ねる</p> <p>(2) 平成 27 年度包括業務委託について</p> <p>ア 行政改革プラン大綱の水道事業アウトソーシングとして部門毎の業務委託を実施し、27 年は包括業務委託へと移行するが、公募型プロポーザル方式の審査に当たって、指定業務のみならず水道事業運営の共助となるような審査に留意すべきと思うが、所見を尋ねる</p> <p>10 病院事業について</p> <p>(1) 事務職員の定数と人材育成について</p> <p>ア 今議会に病院職員定数を増員する議案が上程される。医療事業の拡充とともに事務職の業務も拡大すると思われるが、事務職定数は適正か、所見を求める。また、病院事務職においては専門性を重視するのか異動が極端に少ないと感じられる。同一職域での長期勤務については弊害も指摘されているところであるが、人材育成の観点から病院事務職の配置転換に対する所見を尋ねる</p> <p>イ 診療会計システムは待ち時間短縮のために鋭意改善されていると思うが、PC入力の際の誤請求が発生している。チェック機能はどうかになっているのか</p>	
2	21	門間 忠 (改新クラブ)	<p>1 大崎市総合計画、大崎市行政改革大綱の総括について</p> <p>(1) 本年で大崎市誕生から 10 年目を迎える。そこで、「大崎 20 万都市への挑戦」といった重点プロジェクトを掲げた総合計画や「市の経営改善策の明確化」「市民と協働により歩む新たな道程の提示」「市民満足度の向上」という目的を掲げた行政改革大綱をどのように総括する</p>	120 分

発言順	議席番号	氏名	発言事項
			<p>か、所見を伺う</p> <p>2 防災対策（原子力防災）について</p> <p>(1) 市民の生命財産を守ることは自治体の最大の使命である。3・11の東日本大震災を経験し、市民の安全・安心の確保に対し格段の取り組みを重ねてこられたことは評価をしたい。先般の大崎市地域防災計画見直しにより、新たに原子力災害対策編が盛り込まれたが、原子力災害発生時の避難計画、広域避難者の受け入れ態勢、子供や病院、福祉施設等の災害弱者への対応など、いざというときに迅速に対応できるような具体の対応策についてしっかり体制構築されているのか、伺う</p> <p>3 「ストップ少子化・おおさき元気戦略プロジェクト」及び「まち・ひと・しごと創生総合戦略」について</p> <p>(1) 合併後から現在までの人口動態と、将来推計についての所見を伺う</p> <p>(2) 交付金等の国の財政支援が受けられる事業のみならず、本市独自の政策を打ち出し、それぞれの地域に本当に必要な施策をスピード感を持って実施すべきと考えるが、所見を伺う</p> <p>(3) 総合政策として、各部にわたる取り組みの一体性をいかに構築していくのか、所見を伺う</p> <p>4 行政改革について</p> <p>(1) 新年度は、大崎市行政改革大綱と第3次集中改革プランがともに最終年度に当たる。次期大崎市行政改革大綱の根幹となる、1、行政改革大綱推進の基本体系、2、行政改革大綱の展開、3、行政改革大綱の個別推進項目をどのように見直すのか、所見を伺う</p> <p>(2) また、以下の5項目についても所見を伺う</p> <p>ア 次期の定員適正化計画について</p> <p>イ 事務事業の改善効果と今後の計画について</p> <p>ウ 非常勤職員の待遇改善について</p> <p>エ 非常勤職員の定員管理について</p> <p>オ 市民に理解が得られる数値目標は</p> <p>5 世界農業遺産について</p> <p>(1) これまでの取り組みに対し敬意を表したい。再挑戦に向け体制を強化するとのことだが、登録の可能性について率直に伺う。また、取り組みの前提となる「大崎市農業への恩恵」について改めて確認をする</p> <p>6 農業の振興について</p> <p>(1) 米の過剰基調や、TPPによる大幅な生産者価格低下が現実視される中、大崎の農業元気戦略について所見を伺う</p> <p>7 地域政策について</p> <p>(1) 合併特例債の延伸により、中心市街地への公共事業等の集中投資が計画されているが、持続可能な周辺地域対策は</p> <p>8 安全で平和なまちづくりの推進について</p> <p>(1) 終戦から70年の大きな節目の年を迎え、変化する社会情勢の中であって、テロや紛争が発生している現状が報</p>

発言順	議席番号	氏名	発言事項
			<p>じられている。恒久平和を強く求め、戦争の悲惨さと平和の尊さを次の世代に継承することが求められるが、その取り組みを伺う</p> <p>9 テロ対策について</p> <p>(1) 昨今、さまざまなテロの脅威が増している。大崎市としてテロへの脅威にいかに対処していく考えか、所見を伺う</p> <p>10 道路建設事業について</p> <p>(1) 県事業の志田橋かけかえ工事及び周辺の道路工事等が施工されているが、完成、通行の開始に向けた進捗状況が示されていると思うが、その内容を伺う</p> <p>(2) 志田橋の右岸側の接続道路である市道「下伊場野・山王線」の整備年次及び完成年度を伺う</p> <p>11 地域公共交通について</p> <p>(1) これまで再三にわたり地域公共交通について活発な議論を行ってきた。しかし、改善の歩みは市民感覚では許容できないほど遅く、スピード感を持った対応が求められている。施政方針からは、依然として期待外れの感が否めない。議会内には、議員発議で関連条例を制定し、強制力をもって執行部の対応を求めるべきとの声も上がっているが、所見を伺う</p> <p>12 道の駅による地方創生拠点の形成について</p> <p>(1) 重点「道の駅」選定を評価する。選定により今後期待できる国の支援内容と、地方創生拠点としての具体的な取り組みを伺う</p> <p>13 生涯学習について</p> <p>(1) 学校、地域、公民館の連携のもと「学校支援ボランティア推進事業」を推進するとのことだが、大いに評価したい。具体的にどのような制度設計を行うのか、伺う。また、大正デモクラシー・民本主義の提唱者吉野作造を輩出したまちとして、小中学生に民主主義や選挙の大切さをこの事業を通じて学ばせられないのか、伺う</p> <p>14 旧有備館の復原工事について</p> <p>(1) 大震災から間もなく丸4年、関係者のたゆまぬ努力と地域や当別町の皆さんなどのご支援により、主屋と附属屋の完成が間近となった。大震災からの復旧復興のシンボルとして完成を盛大に祝う式典を催し、復旧復興を大々的にアピールするとともに、支援をいただいた皆さんに感謝の意を表すべきと考えるが、所見を伺う</p> <p>15 図書館等複合施設の建設について</p> <p>(1) 基本設計、実施設計を通し、市民から多くの意見がもたらされ、市民の期待と関心が高まっている。平成 29 年 3 月の開館を目指し、いよいよ 27 年度着工とのことだが、これまで寄せられた意見をどの程度建設に反映でき、市民からどの程度の評価を得られると考えているのか、所見を伺う</p> <p>16 林業振興について</p> <p>(1) 昨年 3 月に「大崎市森林ビジョン」を策定したと聞いているが、その実施状況と、ビジョンに沿った新年度の目</p>

発言順	議席番号	氏名	発言事項
			<p>標について伺う。また、かねて推進してきた自伐林業（土佐の森方式）の普及状況を伺う</p> <p>17 商業振興について</p> <p>(1) 施政方針では言及がなかったが、震災により大きなダメージを負った「リオーネふるかわ」と「醸室」の再建計画（経営改善計画書）の進捗状況を伺う</p> <p>(2) 26年度2回発行したプレミアム商品券の経済効果がいかにあったのか、具体的な数値を伺う</p> <p>(3) まちなか再生の活性化と各地域の商業振興策の具体的な取り組みを伺う</p> <p>18 工業振興（企業誘致）について</p> <p>(1) アベノミクスに端を発した円安傾向は、1ドル120円レベルとなっている。円高で製造業が海外に逃げ去った「空洞化」の時代は終わり、製造業の国内回帰が進んでいるとの報道がある。市内大手企業も国内での生産をふやす計画もあるとのことだが、大崎市として円安の長期化を見据えた立地企業支援戦略を早急に練り、取り組む必要があると考えるが、所見を伺う</p> <p>19 観光振興について</p> <p>(1) 施政方針で述べているとおり、宿泊客数が依然厳しい状況である。お客様の声としては「見る所、遊ぶ所がない」というのが多い。しかし、大崎は多くの観光資源を抱えており、それらを商品化する術が弱いと思われる。その解決策として「着地型観光」の振興を担う「一般社団法人みやぎ大崎観光公社」が設立されたものと理解している。観光公社の「着地型観光」の振興の成果と課題を伺う</p> <p>20 市民病院について</p> <p>(1) 27年度、新本院の病床数を500床まで増床するとの目標を設定し取り組むとのことだが、その課題は何か。特に、地域医療支援病院（急性期病院）である本院は、分院や地域の開業医との病病連携、病診連携が成否の鍵を握ると思われるが、その点の課題について伺う。また、医療従事者の働く環境の整備課題についても伺う</p> <p>21 大崎市立地適正化計画について</p> <p>(1) 施政方針で大崎市立地適正化計画策定の方針が示されたが、その目的と目指すまちづくりのイメージを伺う</p> <p>22 空き家対策について</p> <p>(1) 早期の条例化に取り組む姿勢を評価する。制定に当たっては、空き家が地域住民の健康や安全、環境を著しく損なう場合など、市が強制力を発揮できるような条例とすべきと考えるが、所見を伺う</p> <p>(2) 条例の制定にあわせて、空き家を利活用しやすくする制度の創設が求められる。他市の取り組み等を参考に、新年度でスピード感を持って取り組むべきと考えるが、所見を伺う。また、条例制定により以前より指摘している鳴子温泉の廃業したホテル跡の老朽危険建築物の解体にめどがつくのか、伺う</p> <p>23 雨水対策事業について</p>

発言順	議席番号	氏名	発言事項	
3	16	富田文志 (大志会)	<p>(1) 鹿島台地域、松山地域において公共下水道の雨水事業としての工事着手、古川楡木雨水排水ポンプ場の建設工事の着手が示されているが、工事内容と完成年度を伺う</p> <p>24 再生可能エネルギー導入について</p> <p>(1) 木質バイオマス資源の利活用推進を評価する。このシステムが持続的に機能するための解決すべき課題は何か</p> <p>(2) 温泉熱の利活用に関し、施政方針では鳴子温泉地域の地下構造などの地熱資源開発に係る調査が必要としているが、具体的な調査計画について伺う。その際、独立行政法人産業技術総合研究所はこの分野のトップランナーであり、連携協力を求めるべきと考える。偶然にも「おおさき宝大使」が同法人の理事長を務めていることから、早急にお願ひすべきと考えるが、所見を伺う。また、調査の成果を新たな観光資源にすべきと考えるが、所見を伺う</p> <p>25 農業、工業、観光においての台湾及び韓国に対する海外戦略（J C等の人脈を生かした交易）について</p> <p>(1) 古くから大崎青年会議所は台湾の青年会議所と交流を持っている。韓国においては、市長を初め、多くの市民が交流を持っている。さらには、観光交流もあることから人的交流を生かした農畜産物、商工業の交易を考慮すべきと考える。海外交易の始まりは人的つながりが肝心であり、情報を収集しながら戦略を講じるべきと考えるが、所見を伺う</p> <p>26 若者定住促進・人口減少対策における民間事業活用について</p> <p>(1) 民間事業所が一定範囲の宅地開発を行うとき、若者定住促進、人口減少対策事業に合致する場合は、市として共同参画を図り、何らかの策を講ずべきと考えるが、所見を伺う</p> <p>27 ふるさと納税について</p> <p>(1) 本市特産品のPRの機会として活用する考えは</p> <p>28 防犯対策について</p> <p>(1) 防犯対策として防犯カメラの設置は有効な手段と考えるが、設置促進の考えを伺う</p> <p>1 市政運営の理念について</p> <p>(1) 総合計画の基本理念には、「安全・安心」、「活力・交流」、「自立・協働」、「改革・挑戦」がうたわれているが、市長は仕事始めの挨拶で、職員に対して「より安全・安心で、活力ある市をつくるため協力してほしい」と呼びかけたようだが、新年に当たって、また合併 10 年目を迎えるこの時期に、特にそのことを強調した市長の思いはどこにあるのか</p> <p>2 合併 10 周年について</p> <p>(1) 10 周年の歩みの顕彰は具体的にどのようにされるのか</p> <p>(2) 新しいステージ、足固めをしていくための具体的な方策、大崎版・地方創生元年の目指す方向性について</p> <p>(3) 市木、市花、市鳥など、合併前の 7 地域の象徴を活かし</p>	100 分

発言順	議席番号	氏名	発言事項
			<p>ながら1つにするための方策について</p> <p>ア 選定されたものは単なる象徴として扱われるのか。それとも地場産品開発や観光名所などに活用することにより、地域活性化につなげるのか</p> <p>3 財政見直しについて</p> <p>(1) 28年度から普通交付税の逡減を迎えるが、現在積み増しされている財政調整基金はどのように推移していくのか</p> <p>(2) アベノミクスは大企業目線であり、地方や中小企業、労働者の目線に立っていないと言われているが、地方自治体の自主財源である税収増につなげるための大崎市の取り組みはどうか</p> <p>(3) 今後計画が進められる大型施設整備の財源確保策と後年度負担の平準化に向けた考えについて</p> <p>4 地方創生について</p> <p>(1) 交付金申請には独自の企画力が重要だが、今回の予算化は平成26年度の補正での対応になることから、予定されている事業の前倒しになっている。申請した政策課と今後事業継続を担う担当課との連携、調整はどのように行われるのか</p> <p>(2) 県北の拠点都市として近隣自治体との連携のあり方、方向性について</p> <p>5 公共交通のあり方について</p> <p>(1) 地域内交通と地域間交通の連携と、公共交通空白地域の解消についての基本的な考えについて</p> <p>(2) 隣接自治体との連携と財政負担の考えについて</p> <p>6 組織機構について</p> <p>(1) 新設予定の3室と夜間急患センターの配置職員数について</p> <p>(2) 本庁と各総合支所、6総合支所間の連携について</p> <p>7 少子化、子育て支援について</p> <p>(1) 特にゼロ歳児から2歳児までの乳幼児の待機児童対策について</p> <p>(2) 小学生の学童保育の現状と課題について</p> <p>(3) 公立保育園民営化の方向性について</p> <p>(4) 私立保育園、保育士不足解消策と保育士待遇改善の関連性の考えについて</p> <p>(5) 医療費無料化などは近隣市町と同様の横並び事業を目指すのではなく、優位性が強調でき、市内に定住したくなるような環境整備を目指すべきではないか</p> <p>8 高齢化対策について</p> <p>(1) 高齢化率と高齢者のみの世帯の将来推移について（5年、10年、30年後の自然推移数）</p> <p>(2) 高齢者の生きがいづくりと地域で支える仕組みづくり、生きがいのある高齢社会の環境整備について</p> <p>(3) 高齢者の生活保護世帯の現状と将来見直しについて</p> <p>(4) 老老介護の現状と認知症による徘徊の現状と対策について</p> <p>(5) 認知症対応施設（認知症対応型共同生活介護）の充足の現状について</p>

発言順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項
			<p>(6) 高齢者の増加に伴い、施設入所待機高齢者も増加傾向にある。サービスは高く負担は低くとするよう、今こそ施設利用の負担軽減策が必要ではないかと思うが、取り組む考えはあるのか</p> <p>(7) 介護現場の職員確保のため、育成、養成が急がれる中、市の支援が求められるが、どのような視点に立って取り組んでいくのか</p> <p>9 中心市街地整備計画と新庁舎建設について</p> <p>(1) 大崎市が目指すコンパクトシティについて</p> <p>(2) 整備計画対象地区付近の住民のアンケートや要望調査と、それ以外の市民からのアンケートや要望調査の必要性について</p> <p>(3) 2核2軸構想の発展的な見直しについて</p> <p>(4) 大規模施設建設に伴う発注方法の検討課題について</p> <p>10 基幹産業としての農業振興について</p> <p>(1) 中山間地の持続可能な農業について、JAに期待するものと連携の方策、国が進めているJA全中組織の改革が及ぼす影響について</p> <p>(2) 高齢化と後継者不足による離農と耕作放棄地の現状、水稻栽培の方向性と課題について</p> <p>(3) 水稻中心から6次産業化の推進を図り、個人所得の向上を組織的に展開していくことについて</p> <p>(4) 県種畜場（2施設）を擁する自治体としての活用法と期待する効果について</p> <p>11 地域商店街整備について</p> <p>(1) 震災後、一段と荒廃が進む合併前の各地域中心商店街の再生に向けた方向性と市の誘導策について</p> <p>(2) 地域商店街こそコンパクトシティの方向に進むべきと思うが、市の考えは</p> <p>12 観光立市大崎について</p> <p>(1) 地元産食材の市内各施設（観光施設、温泉旅館、ホテル、飲食店など）での積極的な提供策について</p> <p>(2) 対外的な販売戦略はもちろんだが、市民への地場産品消費喚起（地域内自給自足）の推進に取り組む考えについて</p> <p>(3) 農家民泊などの受け入れ体制を市内全体に構築することについて</p> <p>13 工業振興と企業誘致について</p> <p>(1) 企業誘致の取り組みの現状と企業ニーズの把握について</p> <p>(2) 長者原スマートIC24時間化に伴う周辺開発について</p> <p>14 教育環境整備について</p> <p>(1) 小規模校と小中一貫校の方向性について</p> <p>(2) 職業訓練教育学校について</p> <p>(3) 保育士の育成、養成について</p> <p>(4) 介護士の育成、養成について</p> <p>15 社会教育の方向性について</p> <p>(1) 中央公民館建設に向けた将来見通しについて</p> <p>(2) 図書館建設の進捗状況と目指す図書館像、周辺地域整備について</p>

発言順	議席番号	氏名	発言事項
			<p>(3) 屋外総合運動場の整備について</p> <p>16 病院事業について</p> <p>(1) 本院と分院の役割分担と連携について</p> <p>(2) 開業医過疎地域の見通しについて</p> <p>(3) 新本院開業後に新たに発生した諸問題の実態と改善について</p> <p>(4) がん診療連携拠点病院の体制整備の状況と地域医療機関との連携の現状について</p> <p>17 道路橋梁の整備について</p> <p>(1) 道路整備要望箇所に対する計画箇所と、老朽橋の現状と箇所数について</p> <p>(2) 稲葉小泉線（古南1号線）の延伸と国道47号へ接続する都市計画道路の必要性の認識について</p> <p>(3) 李埜新田線、江合地区の計画道の費用対効果について、予定区間距離と予定事業費は幾らか</p> <p>18 市営住宅の現状について</p> <p>(1) 政策空き家の現状について（何年ほどを見越して政策空き家というのか）</p> <p>(2) 老朽化の現状と建てかえ計画のそごについて</p> <p>(3) 新婚から子育て世代を対象にした市営住宅の増築計画について</p> <p>19 空き家の適正管理に向けた対応について</p> <p>(1) 空き家の現状と危険空き家（老朽空き家等）の現状について</p> <p>(2) 空き家の今後の見通しと市の対応について</p> <p>(3) 条例制定への方向性について</p> <p>20 老朽化した田尻総合支所と鳴子総合支所について</p> <p>(1) 田尻総合支所の建てかえの方向性について</p> <p>(2) 鳴子総合支所の建てかえの方向性について</p> <p>(3) 公共施設等総合管理計画の補助金の対象事業として計画を進めるのか</p> <p>21 福島第一原発事故に伴う指定廃棄物処分の対応について</p> <p>(1) 大崎市の保管の現状と問題点について</p> <p>(2) 早期の解決に向けた考えについて</p> <p>(3) 宮城県産、特に大崎耕土の農産生産物の風評被害について</p> <p>(4) 栃木県塩谷町では住民の反対抗議活動を受け測量を断念したとの報道があったが、宮城県の候補地決定へどのような影響があると考えなのか</p> <p>22 大崎地域広域行政事務組合の事業と大崎市のかかわりについて</p> <p>(1) 斎場建てかえ計画について</p> <p>(2) ごみ焼却施設の建てかえについて</p> <p>23 職員の資質向上に向けた研修と登用について</p> <p>(1) 合併前の1市6町の職員研修の実態と合併後の大崎市の職員研修の現状比較について</p> <p>(2) 職員研修、スキルアップの検証はどのように行われているのか</p> <p>(3) 積極的な人事交流について</p>

発言順	議席番号	氏名	発言事項	
4	25	小沢和悦 (日本共産党大崎市 議会議員団)	<p>(4) 希望する担当への異動, 意欲ある職員の積極的登用について</p> <p>1 市長の政治姿勢について</p> <p>(1) I S I Lによる日本人質殺害事件と政府対応の評価</p> <p>(2) 憲法9条の評価と行動について</p> <p>(3) 昨年6月25日の大崎市議会の「便利な循環バス等公共交通体系の早期の充実・強化に関する決議」を急を要する課題とは受けとめなかったのか</p> <p>2 放射性汚染物質対処特別措置法等の早急な見直しを国などに求めることについて</p> <p>(1) 市長の認識について</p> <p>(2) この件で県内市町村長会議の開催を呼びかけることについて</p> <p>3 第6期大崎市高齢者福祉計画の策定について</p> <p>(1) 大崎市話し合う協働のまちづくり条例は策定過程に生かされているか</p> <p>(2) 安倍政権による介護保険制度改悪による市民への影響を防ぐ積極的な施策展開について</p>	80分
	27	佐藤 勝 (清和会)	<p>1 まち・ひと・しごと創生総合戦略大崎版策定と総合計画の検証は。ストップ少子化・おおさき元気戦略プロジェクトと第2次大崎市総合計画策定に向けて</p> <p>(1) 「宝の都(くに)・大崎」と将来像を描き, 平成28年度の定住人口14万人と想定した伊藤市政も10年目。重点プロジェクト20万都市への挑戦, 産業革命, 産業維新と1万人雇用機会の創出, 大崎市流自治組織の3本の矢の総合計画もあと1年余り。将来像「〜ずっとおおさき・いつかはおおさき〜」も道半ば, なかなか実績につながっていないのが現状であり, 進行管理とPDCAマネジメントサイクルをどう進めてきたのか。また, 10年後の目標を立てたが, 目標に近づいているという施策は数少なく, まれである。成果のあった施策は何か。目標達成度の検証が不十分で, 節目節目のプロデュースと戦略をどう練っているのか</p> <p>(2) 元気戦略プロジェクトの策定に当たり, 市民参加型や市民との情報共有が見えない。市民協働の理念である話し合う協働のまちづくり条例を制定したこの一年, 行動計画を公表し, 市民協働の推進にどう役立させ, 成果をどう見ているか。また, まちづくり推進員の配置, あるいは元気戦略プロジェクト大崎版には地域担当制等が考えられるが, どう検討しているのか。施政方針に, 新たな行政課題に対応するため3事業を挙げて組織機構の見直しを行うとあるが, 大崎市版人口ビジョン, まち・ひと・しごと創生総合戦略は当然としても, あと2つの事業はなぜ見直しをしなければならないのか, 理由を伺う。それよりも, 市民型と言われる地域担当やまちづくり推進員設置がより情勢の変化に柔軟に対応するための見直すべきことと思うが, 市民と行政が対等に話し合う</p>	60分

発言順	議席番号	氏名	発言事項	
	17	山田和明 (公明党)	<p>という条例の手続を併用することが大切であり、そこを省略しようとしているようであるが、どうか</p> <p>(3) 大崎市の10年後、20年後の人口フレーム、特に生産年齢人口はどう推移するのか。それにどう目標を設定するのか。それを踏まえた財政の影響とシミュレーションを通じ、市民と真正面から向き合っの情報共有する取り組みをすべき。また、図書館、防災拠点整備、市庁舎と公共施設整備等が予定されるが、人口減で利用率が下がり、公共施設の更新時期に入るため、施設の維持運営には民間活力の利用や、市民負担を減らしながらどう公共サービスを維持していくかの知恵が必要であり、その取り組みを始める時期であると認識するが、どうか</p> <p>(4) 地域版大崎の創生に、雇用の場の確保、充実はどう考えるか。そのためにも限界集落等の政策の制度設計や中規模産業団地整備について、この大崎版策定にあわせ、27年度中に計画をつくるべき。それが「真の豊かさ 連携と協働による大崎の創生」、幸福度の向上という生き方や暮らしを見つめ直す時期、第2次総合計画を策定する大事な序奏期間が27年度と思うが、市長の所見を伺う</p> <p>1 大崎市における地方創生の取り組みについて</p> <p>(1) プレミアム付商品券の効果的な取り組みについて。多子世帯、3世代同居への特典上乘せで生活支援型の取り組み</p> <p>(2) 大崎市での小さな拠点の形成の推進について</p> <p>2 子育て支援について</p> <p>(1) 子育て世代包括支援センターの取り組みについて</p> <p>(2) 結婚から出産、子育て支援までトータルの支援の充実について</p> <p>(3) 子ども・子育て支援新制度で地域子ども・子育て支援事業での大崎市の取り組み</p> <p>3 中小企業、小規模事業者への支援対策について</p> <p>(1) ものづくり・商業・サービス補助金等、国のさまざまな補助金の周知について</p> <p>(2) 中小企業等への資金繰り支援、事業再生支援（政府系金融機関による資金繰り支援の啓発）</p> <p>(3) ふるさと名物の開発と販路開拓の取り組みについて</p> <p>4 高収益型畜産体制構築事業について</p> <p>(1) 地域ぐるみの展開として畜産クラスターの取り組み</p> <p>(2) 第11回全国和牛能力共進会宮城大会に向け、畜産農家が意欲をもって畜産経営ができる体制づくり</p> <p>5 空き家の活用と空き家対策条例の制定について</p> <p>(1) 空き家の実態の把握と適正な管理や利活用について</p> <p>(2) 空き家対策条例の考え方について</p> <p>6 高齢者が安心して生活ができる体制について</p> <p>(1) 地域で認知症高齢者を見守る体制の確立について</p> <p>(2) 要介護度が軽い「要支援1、2」の高齢者向けサービスの移行の見通しについて</p> <p>(3) 高齢者及び高齢者施設利用者の救急搬送の救急要請に対</p>	40分

発言順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項	
			する迅速, 的確な救急搬送の体制の確立について	